

日本教育大学協会がシンポジウム「今後の教員養成の在り方について」を開催

日本教育大学協会（会長＝國分充・東京学芸大学長）は8月19日（金）、日本教育大学協会シンポジウム「今後の教員養成の在り方について～教員養成フラッグシップ大学の構想・展望から～」をWeb会議にて開催し、会員大学・学部の構成員をはじめ教育委員会、報道関係者など約230名が参加した。

近年、社会全体が激しく変化している中、教員養成を巡る状況も大きく変動しており、令和4年3月には「教員養成フラッグシップ大学」の指定が行われるなど、教員養成はこれまでとは異なる新たなステージへと突入し、様々な変革やスピーディーな対応等が求められている。本シンポジウムでは、教員養成フラッグシップ大学に指定された4大学（東京学芸大学・福井大学・大阪教育大学・兵庫教育大学）から、それぞれの構想や今後の展望等を発表し、その内容を共有するとともに、今後の教員養成の在り方について意見交換を行うことを目的とした。

冒頭、國分会長の開会挨拶及び小畑康生文部科学省総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室長からの挨拶に続き、佐々木幸寿東京学芸大学理事・副学長、松木健一福井大学理事・副学長、岡本幾子大阪教育大学長、吉水裕也兵庫教育大学理事・副学長からそれぞれの大学におけるフラッグシップ大学の構想・展望について発表があった後、シンポジウム参加者との意見交換を行った。

各大学からの発表や意見交換を通し、教員養成フラッグシップ大学を中心とした国立教員養成大学・学部が期待されている役割について認識を深めるとともに、今後の教員養成に対する活発な意見交換が行われるなど有意義なシンポジウムとなった。



國分会長



小畑室長





(事務局の様子)